

業務最適化サービス（業務改革企画と実行）

本当に必要な改革を、確実に実行するために・・・

業務改革を実行するために必要なのは、企画力と推進力

あなたの会社では、様々な環境変化に対して業務を変えようとしたとき、どのように進めていますか？ 業務改革は、会社の社長以下、間接部門をも含めたすべての業務が対象となります。また、近年業務改革といえばITを活用することが常識のようですが、「高額な投資をしてITを導入しても、その想定していた効果が得られなかった」、「情報化した効果が良く見えない」、「何の為に情報化したのかわからない」、といった声がよく聞かれます。適切なIT導入は業務の効率化に寄与しますが、ITはあくまで業務改革の道具であって、業務改革の本質は人の意識の改革です。だからこそ、業務改革における課題の明確化、課題解決の方向性と実施計画を策定する『企画力』と、それを関連部門を巻き込んで実行する『推進力』が必要です。

サービスの一例（化学製造業A社様におけるプロジェクト）

調達、生産、販売に関わる全部門（本社、工場含む）の業務最適化を目指す！！

化学製造業A社様では、本社部門と国内4工場の業務が重複していたり、工場ごとに業務フローが異なるなど、様々な問題が数多く想定されました。しかし、それらが定量的に評価されているわけではなく、また関連部門の関係性も不明確であった為、本質的な課題まで深掘りすることができないまま、部門別の取り組みに終始していました。

今回はそのような状況を打破すべく、全社を巻き込み、業務の可視化、企画策定のみならず、実行、定着までを含めた、『実のある業務改革』を推進しました。



(1) 診断フェーズの活動

間接部門の業務量調査、各部門における取り組みテーマの設定、テーマの関連度診断

(2) 企画フェーズの活動

SCMの中心となる組織の在り方定義、到達目標の設定、課題の整理、実行計画策定

(3) 実行フェーズの活動

調達、生産、販売部門との協議（役割、権限）、新業務設計、新組織立ち上げ

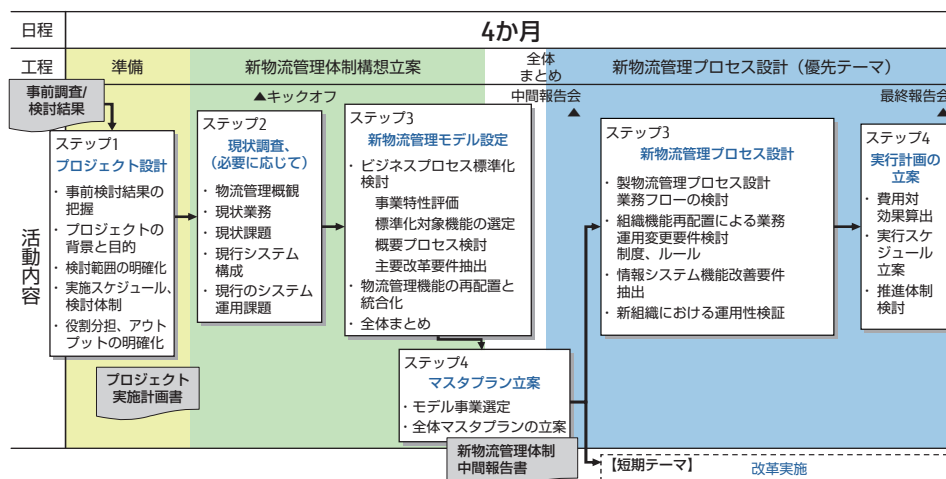
(4) 定着フェーズの活動

新組織による活動モニタリング、課題管理の推進、効率化施策実施、新機能（企画機能）立ち上げ

業務改革企画策定の進め方

新たな管理体制の構想作りと具体的なプロセス設計を、お客様と協働で！！

業務改革を推進する場面で、何が課題であるのかは、コンサルタントよりもその組織に居る人が一番良くわかっており、その解決方法もある程度想定できています。そのために、コンサルタントが一方向的に「こうあるべき」と決め付けるのではなく、協働でプロジェクトを推進しながら、お互いの意識を合わせることで、より良い企画を策定します。



改革実行の進め方

改革実行に必要なことは、緊張感の維持とやり遂げる強い意志である！！

業務改革の実行責任はお客様にあります。多くの部門が関わるために、それぞれの利害関係や、組織同士の力関係から発生する数多くの障壁が存在します。また、推進者が社内の人であるが故に、その壁を崩せないこともあります。そのときに必要になるのが、外部コンサルタントの活用です。

1. 全体のプランニング

数多い業務改革経験から、お客様に適した全体の実行詳細プランを提供します。
(検討ステップの設計、関連部門討議のファシリテーションから、組織分掌作成、什器準備まで)

2. 組織間の関連性評価

業務フローでは現れてこない業務実態を、作業報告書やメールの授受情報のテキストマイニングなどによって可視化し、関連性を評価します。

3. モニタリング (実態把握—評価—対応協議—施策実行のプロセスを牽引)

新組織における業務推進状況をモニタリングできるツールを提供し、抽出された課題に対して迅速な施策立案、実行を促します。

サービス提供による効果

業務改革が中途半端な状態でストップしてしまうのは、そのプロジェクトを完遂するという意識が弱くなるのが原因です。社内メンバーに加え、外部のコンサルタントを活用することによって、改革のスピードアップとプロジェクト完遂に向けた緊張感の醸成が図れ、実のある改革が実現できます。

お問い合わせ先

株式会社 富士通総研

第1コンサルティング本部 産業事業部
〒105-0022 東京都港区海岸1-16-1ニューピア竹芝サウスタワー TEL:03-5401-8397
<http://jp.fujitsu.com/group/fri/>